



国連を支える世界子ども未来会議 in INAGI を開催しました



「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育(ESD)」の一環として、市立小学校6年生の代表者が集まり、8月30日(金)に、「国連を支える世界子ども未来会議 in INAGI」を一般財団法人ピースコミュニケーション財団と共同開催しました。「国連を支える世界子ども未来会議」は世界の子供たちが集まり、SDGs を軸として平和で豊かな世界について表現し、語り合う場です。本会議で最優秀賞を獲得したグループは、令和7年3月に東京都内で開催予定の「第5回国連を支える世界子ども未来会議」と8月に大阪・関西万博にて開催する「国連を支える世界子ども未来会議 FUTURE SUMMIT みらい総会」に稲城市代表として参加することができます。



撮影：鳶野 裕



撮影：鳶野 裕

第1部のワークショップは、地域振興プラザ4階で開催、「住み続けられる未来の稲城市」をテーマにディスカッションを行い具体的なアイデアや各自ができる行動を考え、発表ボードの作成を行いました。

第2部は市議会本会議場に会場を移しました。各グループがまとめたアイデアについてプレゼンテーションを行い、審査員と他のグループの児童からの質疑に回答、審査員が採点し、「Fグループ」が最優秀賞に選ばれました。

各グループが作成したプレゼンテーションの発表ボード

Group A

「住み続けられる未来の稲城市」について考えよう

「住み続けられる未来の稲城市」を実現するためには **稲城らしさ** が大事だと思います。

理由は 本産品の 特産品(梨)の農家が減っているので 梨を守るために、梨を人気にして 梨農家を増やしたい からです。

そのために私たちが明日からできることは 梨のこも調べて 身近な人に伝えること です。

メンバー：二浦塔吾、矢澤愛菜、宮崎愛理 西野 和佳

Group B

「住み続けられる未来の稲城市」について考えよう

「住み続けられる未来の稲城市」を実現するためには **絆** が大事だと思います。

理由は 少子高齢化が進んでおりたくさん高齢者が1人でなやみをかかえているファミリー世代の人たちは子育てがたいへん からです。

そのために私たちが明日からできることは **介護の紹介サービスに市にアンケートを提案すること** です。

メンバー：東山 梨子、根田 穂色、高向 俊郎、祝 迫 葉

Group C

「住み続けられる未来の稲城市」について考えよう

「住み続けられる未来の稲城市」を実現するためには **思いやり** が大事だと思います。

理由は 思いやることでお互いを理解し、これからの稲城を稲城のよさを活かしつつ、住み続けられる稲城を考えたとき、思ふ からです。

そのために私たちが明日からできることは 稲城のよさを思いやり、機会をつくること です。

メンバー：鈴木 心葉、山本 彩夏、松原 玄季、高橋 悠哉

Group D

「住み続けられる未来の稲城市」について考えよう

「住み続けられる未来の稲城市」を実現するためには **自然について話し合** が大事だと思います。

理由は 稲城市は自然が多いので、自然について話し合うことで、コミュニケーションが増え、見えたり、協力しあったりできる からです。

そのために私たちが明日からできることは 他市の自然に関する取り組みを調べること です。

メンバー：横口知羽、若菜 智恵、青山 翔太、高橋 悠衣

Group E

「住み続けられる未来の稲城市」について考えよう

「住み続けられる未来の稲城市」を実現するためには **自分らしさ** が大事だと思います。

理由は ガードルがないところや歩道が狭いところや、歩行者が安全に歩ける(20分以内)が見つけられる場所が多い からです。

そのために私たちが明日からできることは **梨ロードを啓くこと** です。

メンバー：石田 唯子、三浦 悠希、高橋 悠哉、高橋 悠衣

Group F

「住み続けられる未来の稲城市」について考えよう

「住み続けられる未来の稲城市」を実現するためには **価値観の理解** が大事だと思います。

理由は 違う立場の人の意見を分か合うことにより、みんなが協力してよりよい稲城市を盛り上げることができるから からです。

そのために私たちが明日からできることは 人と違いを発見した時にそれをポジティブに認めることです。

メンバー：藤本 奏、荒木 佑心、高橋 悠哉、宮崎 唯月

教育長コラム

No.07

谷川俊太郎さんから学んだこと

「カムチャッカの若者が きりんの夢をみているとき メキシコの娘は 朝もやの中でバスを待っている」谷川俊太郎作の詩「朝のリレー」冒頭の一節です。教員時代の、この詩について

の授業は、楽しい思い出の一つです。「カムチャッカ」というリスミカルな響き、異国の街へのフープ…この書き出しから、読み手は未知の世界への扉を開きます。皆で心弾ませながら音読し、地球を外から概観し、今この瞬間の地球の向こう側に思いを馳せました。その「ぼくらは朝をリレーするのだ」「経度から経度へと そうしていわば交替で地球を守る」のフレーズから、まだ見ぬ世界の友と、地球の美しさと平和を一緒に守っていきたい、そんな展望を、中学生と共有したものでした。

「かっぱかっぱらった」(「こぼらばかっぱらった」(「こぼらばあそびうた」(福音館書店)所収、詩「かっぱ」より)〜日本語の魅力と神秘を実感しながら、教室皆で、大きな声で「言葉遊び」を楽しみました。

「生きてくる」といって、ま生きてくる」といって、ま、詩「生きる」〜この作品の中で谷川さんは、「生きていくこと」「木もれ陽がまぶしいこと」「ふっと或るメロディを思い出すこと」「日常出会う様々な事象や感覚を綴りながら、「あなたと

手をつなぐこと」「かくされた悪を注意深くくばむこと」「人は愛するということ」と、人として生きていく上での大切にしたいことを謳っておられます。

日本全国、いえ、世界中で、谷川俊太郎さんの詩や言葉に、多くの人が、惹かれ親しんできました。私もその一人として、また教員として、谷川さんの作品世界に魅せられてきました。

谷川さんの詩の数編は、メロディも付けられ、合唱曲としても広く親しまれています。「この気もちはなんだらう目に見えないエネルギーの流れが 大地からあしのうらを伝わって・・・」(詩「春に下り」)「春」という季節、大地に立つ若者の、「よろこび」「いらだち」「あこがれ」「もどかし」などの、様々な感情のせめぎ合いが続きます。この季節に誰もが抱く不安定さや揺れとともに、可能性を信じる心持ちを謳い、生きるこの厳しさ喜びを謳い上げます。

また、詩「信じる」も、合唱曲のスタンダードナンバーとなっています。10年ほど前校長として着任した稲城第四中学校では、当時、学校行事「合唱コンクール」第3学年の「課題曲」として、「信じる」が歌われていました。「自分にうそがつかない私 そんな私を私は信じる 信じることに理由はいらない」「葉末の露がきらめく朝に 何をみつめる小鹿のひとみ すべてのものが日々新しい そんな世界を私は信じる」〜小さきものに心を寄せ、世界の現実を直視し、美しいものに感動する、そのよ

うな人間としての素直な姿勢をもつ自分を、まずは自分自身が信じていくという、若者への温かく力強いイエールに満ちた作品です。生徒達は、谷川さんか

らのメッセージを共有し、詩の心を確実に受け止め、さらに聴く人への思いをしつかりと伝えようと、真剣に歌唱に取り組みました。そして本番、彼ら彼女らは、まぶしく熱いライトを全身に浴び、暗い客席に相対し、自分の力を信じ、自分を励まし、仲間との心の絆をたよりに、見事に「信じる」を歌い上げました。私も、その生徒達の姿から、「自分を信じる」との意義に、心の底から感じ入りました。

易しく親しみある言葉を登場させながら、人間の深層や世界の様子に気付かせ、人として生きていくための姿勢を考えさせてくれる谷川さんの作品の数々には、本当に多くの人々が、様々な思い出をおもちのことでしょ。私はまた、教育に携わってきた経緯から、中学生とともに谷川さんの作品に触れ、感動を分かち合うという幸運にも恵まれました。谷川さんの作品から、言葉を介して一人ひとりが情景や心情を自在に想像し、その考察を仲間と共有するという、学び合いの基本的な意義を実感してきました。

現在も、本市立小中学校が使用している教科書には、「生きる」(小学校第6学年・国語科)、「春に」(中学校第3学年・国語科)(中学校・音楽科)が掲載され、本市の子ども達は谷川さんの作品に学んでいます。日本人の一人ひとりがその作品に日々触れ、何かを想った谷川さんの作品は、同じように、稲城市の児童・生徒、さらに稲城で学び成長された皆様にも、貴重な学びを届けてくださいました。

また最近、令和5年11月、岩波書店から、谷川さんとブレイドイミカこ氏の往復書簡形式による書籍『その世の世』が刊行されました。私は、令和

6年1月定例校長会冒頭挨拶において、同書の読後感とともに、生と死の連続性に視点を据えながらの一連のやり取りを紹介しながら、同書内にてブレイドイ氏により言及されている「人間が脳をアップデートしてデータとして生きるようになる」という「トランスヒューマン」について英国の若い世代の間で議論されている」との箇所を提示し、「人間同士が直接触れ合い、相対することに価値を置いていきたい」との考え方を、お示しいたところ。同書ではさらに、終末箇所にて、谷川さんが、「本来群生動物である人間が、いつからか群れの中の一人ひとり、つまり個人として目覚めそれがついにA-にまで進化?」始めた、その事実には私たちが未来への展望と同時に、漠とした不安を感じているのも事実です。」と述べられています。

谷川俊太郎さん、令和6年11月13日、92年の生涯を閉じられました。残された作品は、これからも永く、私達に、人間観や世界観を、問い続けていくのでしよう。私も、さらに文明的進化を遂げていく世界を見据え、発展を享受し活用しながらも、時に谷川さんのメッセージに立ち返り、人間として必要な力、在るべき姿を追求していかなくてはならないと思っております。

稲城市教育委員会教育長 杉本真紀子

【引用・参考】 谷川俊太郎 「朝のリレー」「かっぱ」「生きる」「春に」「信じる」 谷川俊太郎 ブレイドイミカこ 『その世の世』(岩波書店)

教育委員会紹介

9月30日付にて教育委員会委員の吉田伸幸氏及び三戸美代子氏が退任されたことに伴い、9月の第3回市議会定例会で同意を得た後、田中教仁氏及び上林秀之氏が新たに市長から任命されました。教育委員会は教育長及び4人の委員で構成されています。委員は、教育、学術及び文化に関し識見を有するものから任命されており、任期は4年です。教育委員会は、合議制のもと稲城市の教育に関する方針の決定を行っています。

<p>教育長</p>  <p>杉本 真紀子 任期：令和6年10月15日～令和9年10月14日</p>	<p>委員(教育長職務代理者)</p>  <p>白井 妙子 任期：令和5年10月1日～令和9年9月30日</p>	<p>委員</p>  <p>北川 英一 任期：令和4年10月1日～令和8年9月30日</p>
<p>委員</p>  <p>田中 教仁 任期：令和6年10月1日～令和7年9月30日</p>	<p>委員</p>  <p>上林 秀之 任期：令和6年10月1日～令和10年9月30日</p>	

▷問合せ 教育総務課

「稲城市地域教育フォーラム」を初開催します

「稲城市地域教育フォーラム」を初開催します。第1部では、稲城市の子ども達に関わる団体・組織・学校・園の一体的な取組や実践の成果について直接団体等が発表し、第2部では、文化庁次長の合田 哲雄氏が講演会を行います。市内在住・在学・在勤の方ならどなたでも参加できます。子どもも大人も皆が幸せや生きがいを感じられる学びの在り方について「稲城市地域教育フォーラム」で共に考えましょう。

日時：令和7年1月25日(土) 午後1時30分～4時30分(開場1時)
会場：中央文化センター ホール
第1部：【発表】稲城市の地域教育団体等による活動内容
第2部：【講演会】講師 合田 哲雄 氏(文化庁次長)

●講師プロフィール



合田 哲雄 氏
平成4年文部省入省
国立大学法人化や学習指導要領改訂を担当
初等中等教育局教育課程課長、内閣府・審議官等を経て現職
「学習指導要領の読み方・活かし方」、「学校の未来はここから始まる」等著書多数

▷問合せ 指導課

市立小中学校の入学式等の日程

令和7年度の市立小中学校入学式等の日程については下表のとおりとなりますので、お知らせいたします。

	入学式	始業式
小学校	4月8日(火)	4月8日(火)
中学校	4月9日(水)	4月8日(火)

▷問合せ 指導課

市立小中学校のESD取組紹介

稲城第六小学校

総合的な学習の時間 「多摩川研究所」

本校の4年生は今、学校の北側を流れる多摩川に生息している野鳥と、外来種の生物について学んでいます。6月10日(月)に、「日本野鳥の会」の箱田 敦只氏をお迎えして、学区域に生息している野鳥についてお話をいただきました。子ども達は、見たことはあるけれど、名前を知らない野鳥や、鳴き声は聞いたことがあるけれど、姿を見たことがない野鳥の話に耳を傾けたり、フィールドワークをもとに、その興味深い生態を観察しました。

また、多摩川に生息している外来種の魚や水草にも注目し、7月2日(火)に「おさかなポスト」の山崎 愛柚香氏と、外来種の水草「オオフサモ」の駆除作業に取り組みました。子ども達はこれらの活動を通して、多摩川の現状について知るだけでなく、身近にある自然の大切さについて、改めて考え直すことができました。



稲城第五中学校

和服(浴衣)着付け体験学習

10月9日(水)に総合的な学習の時間で和服(浴衣)着付け体験授業を1年生が実施しました。講師に特定非営利活動法人 きもの笑福(わふく)の方々をお招きし、各クラス2時間ずつ着付けを体験しました。事前学習として「日本の文化 和服」を学習していたため、真剣に講話を聞く姿が印象的でした。

浴衣を自分で着るとい体験活動を通して、日本の衣文化の良さに気付くことができ、また世界の衣文化との違いについて様々な角度から考えを深め、広げる機会となりました。

授業後には、講師の方々にお礼のお手紙を一人ずつ書きました。着付け体験で学んだことや感じたこと、感謝の気持ちが丁寧に書かれており、この日の充実度がよく分かりました。



市長と中学生との懇談会を開催しました

10月31日(木)に「第25回稲城市長と中学生との懇談会」を開催しました。懇談会の内容は、「自己紹介・自分の興味があること」「生徒会活動の様子」「市長への質問」「市長とのフリートーク」等であり、市立中学校の生徒会役員が参加し、オンラインにて開催しました。

各中学校生徒会活動の様子では、「学校のよいところ」「生徒会が力を入れていること」「地域との交流活動」等、生徒会役員が直接報告する場面や、ビデオレター形式で報告した学校もありました。

市長からは、挨拶及び言葉をかけることはコミュニケーションの入口であること、一人の大人として参加するボランティア活動により、人を助ける立場を通じて社会を学ぶことの大切さ等について話がありました。

市長との懇談を通して、生徒会活動に対してさらに意欲が高まりました。また、自身の生活や将来を考える貴重な時間となりました。

▷問合せ 指導課



パリ2024パラリンピック競技大会ゴールボール男子金メダリスト 萩原直輝選手の講演会を開催しました

パリ2024パラリンピック競技大会のゴールボール男子、日本代表金メダリストの萩原直輝選手の講演会が10月9日(水)、母校の長峰小学校で行われました。小学校の思い出、調理師という夢を目指すも視覚障害者となり、その中でゴールボールに出会ったこと等のお話がありました。

最後に萩原選手からは「何が起きるか分からない人生、目標をもつことが大事」「日頃から感謝の気持ちを伝えてほしい」等のお言葉があり、とても素敵な講演会でした。



▷問合せ 指導課

図書コラボ給食を実施しました

稲城市では、読書の秋にちなんで図書コラボ給食を実施しました。本に関心を持つきっかけができるよう、小中学生に人気の本の中から3つの作品を選び、本の中に出てくる料理を給食で提供しました。

学校においては、図書コラボ給食のコーナーを設け、本の紹介をしたところがありました。

11月11日(月)は、「こまったさんのカレーライス」より、「こまったさんが作ったカレーライス」を給食で再現しました。

11月12日(火)は、「西の魔女が死んだ」より、本の中に出てくるおじいちゃんとおばあちゃんの思い出の味である「いちごジャム」と、おばあちゃんとまいの仲直りのきっかけとなった「トマトスープ」を味わいました。

また、11月27日(水)には「からすのパンやさん」より、本の中に出てくるいろいろな面白くてすてきな形のパンの中から給食では「かたつむりパン」を楽しみました。



「こまったさんのカレーライス」より



「西の魔女が死んだ」より



「からすのパンやさん」より

▷問合せ 学校給食課

1. 教育行政報告
2. 請願(一部採択)
教科書採択の教育委員会に関

第10回定例会 10月8日
第1回臨時会 10月1日
議席の決定

1. 教育行政報告
2. 議案(可決)
令和6年度稲城市教育委員会
職員の人事について、稲城市立
公民館条例施行規則の一部を改
正する規則、訴えの提起につい
て
3. 議案(承認)
専決処分承認を定めること
について(損害賠償の額を定め
ること)に係る議案の提出につい
て
4. 報告事項

第9回定例会 9月17日
稲城市教育委員会公共的
事業の運営及びひなぎ使用に
関する規則、稲城市立学校の
通学区域に関する基本方針(案)
について
4. 報告事項
【問合せ】教育総務課

1. 事務局説明
2. 協議事項
3. その他
【問合せ】教育総務課

第4回策定委員会 9月13日
1. 事務局説明
2. 協議事項
3. その他
【問合せ】教育総務課

第4次稲城市
教育振興基本計画
策定委員会の動き
3. 議案(可決)
稲城市教育委員会公共的
事業の運営及びひなぎ使用に
関する規則、稲城市立学校の
通学区域に関する基本方針(案)
について
4. 報告事項
【問合せ】教育総務課

いじめ防止の取組

令和6年度 稲城市立学校いじめ防止啓発月間

稲城市は学校・家庭・地域の連携によりいじめ問題の解消や児童・生徒のいじめ防止への意識の向上を図るために、「稲城市立学校いじめ防止啓発月間」を11月1日(金)から11月29日(金)の期間に位置付け、市立学校においていじめ防止のための取組を重点的に推進しています。

稲城市立学校いじめ防止啓発月間の取組について一部を紹介します

小学校

- 代表委員が中心となり、各学級でいじめ防止のクラスの合言葉を話し合っ決めて。
- 4・5・6年生がいじめや問題行動等の未然防止を目的として、一人一人が標語を作成し、啓発活動を実施する等の取組

中学校

- 生活委員会が中心となり、全校生徒に身近にある思いやりを振り返らせ、心地良く学校生活が過ごせるような活動(思いやり川柳)を実施する。
- いじめが起きない環境づくりについて全校生徒で考える。

▷問合せ 指導課

学校図書館の取組

稲城市には小学校が12校、中学校が6校あります。それぞれの学校の「学校図書館」で、様々な取組をしています。稲城市では、「学校図書館活性化推進員連絡会」と「学校図書館運営推進委員会」を開催し、稲城市立図書館と連携してそれぞれの学校の取組のさらなる充実を図っています。

<学校図書館活性化推進員連絡会>年2回開催

児童・生徒の読書への意欲を高めるとともに、学校図書館の運営の充実等により、学校全体としての読書活動をさらに推進することを目的としています。年2回の全体連絡会の他に、小・中学校別、各中学校ブロック別に情報交換会を開催し、各校の取組や図書館の環境整備等の情報交換を積極的に行っています。

<学校図書館運営推進委員会>年2回開催

学校図書館担当の教員、学校図書館活性化推進員、市立図書館職員で構成され、「第三次稲城市子ども読書活動推進計画に基づき、学校図書館を充実させ、児童・生徒が主体的に読書をしようという意欲を育てる」ことを目的としています。



稲城第一小学校図書館



稲城第六中学校図書館

▷問合せ 指導課

10月22日(火)、「学校図書館活性化推進員連絡会」と「学校図書館運営推進委員会」を同時に開催しました。共通のテーマである「児童・生徒の「不読率」の更なる改善」と「読書に主体的に関わる態度の育成」について、今年度の成果や課題等、活発な情報交換を行いました。

○各校の取組事例

- 「先生によるおすすめの本の紹介」：先生のおすすめの本を図書館に展示
- 「読書ピンゴ」：様々な種類の本を読み、カードにスタンプを押す。
- 「しおりコンテスト」：イラストや本の中の言葉などをかいたオリジナルのしおりを募集
- 「稲城の子どもに読ませたい本100選」：100選の中から児童・生徒へ紹介
- 「ポップ」の作成：「第29回日本絵本賞ポップ交流」に実践校として参加
- 「点字の本」：読書バリアフリー体験セットを利用し、点字の本に目を閉じて触ってみる体験

○協議から～「図書」の時間をどう過ごすか～

デパートやスーパーの食料品売り場には、試食コーナーがあり、試しに食べてみて、おいしかったら「買ってみよう」となります。

図書の時間も同様に、様々なジャンルの本を複数選び、それぞれ5分ずつ読みます。そしてその中から気に入った本があったら、そのまま読み進めたり借りたりするのはどうか、といった協議が展開されました。

今後も、児童・生徒が「本」とよりよい出会いができ、「本」を通して豊かな人生を過ごすことができるよう、取り組んでまいります。

「稲城市立学校の通学区域に関する基本方針」を策定しました

稲城市では、土地区画整理事業等の都市基盤整備が進んでおり、まちなみや児童・生徒数の状況が変化しています。このような状況に対応するため、「稲城市立学校適正学区等検討委員会」を設置し、通学区域に関し検討いただきました。

検討委員会から提出された「検討結果報告書」を受け、教育委員会では、通学区域変更対象地域の保護者への説明を行い10月8日(火)に、「稲城市立学校の通学区域に関する基本方針」を策定しましたので、概要をお知らせします。

1. 通学区域について

- 本市では、通学区域による指定校制を採用しており、今後もこれを維持し、遵守していくことを基本とします。
- 通学区域設定にあたっては、学校規模の適正化、通学の安全の確保、地域とのかかわり等の視点で総合的に判断しております。

2. 通学区域の変更

今回の基本方針では右記の3か所について通学区域の変更を行っております。

- 稲城第二小学校区から長峰小学校区又は若葉台小学校区への通学区域の変更
- 向陽台小学校区及び稲城第三小学校区から城山小学校区への通学区域の変更
- 稲城第四小学校区から稲城第六小学校区への通学区域の変更及び稲城第一中学校区から稲城第四中学校区への通学区域の変更

3. 通学区域変更の時期

令和7年4月1日

4. 通学区域変更に伴う経過措置

令和7年4月1日から令和13年3月31日まで、6年間の経過措置期間を設け、対象地域の児童・生徒の心身に影響を及ぼさないよう配慮いたします。

詳細につきましては、市ホームページに掲載している「稲城市立学校の通学区域に関する基本方針」をご覧ください。

▷問合せ 学務課



市HP